

## 経済指標解説

2014年10月3日

# 主要な経済指標の発表予定と予測

## (10/6~10/10)

経済調査部  
松浦大将  
03-3591-1435  
hiromasa.matsuura@mizuho-ri.co.jp

【来週の注目材料】※（ ）内はみずほ総研予想

- 7日 : 日銀金融政策決定会合 (6・7日)
  - : 日銀総裁定例記者会見
  - : 8月の景気動向指数 (C I一致指数108.5、C I先行指数104.0)
- 8日 : 8月の経常収支 (1,639億円の黒字)
  - : 日銀金融経済月報 (10月)
  - : 9月の景気ウォッチャー調査
- 9日 : 8月の機械受注 (船舶・電力を除く民需) (前月比+3.1%、前年比▲4.8%)
- 10日 : 日銀金融政策決定会合議事要旨 (9/3・4分)
  - : 8月の第3次産業活動指数 (前月比▲0.2%、前年比▲2.5%)
  - : 9月の消費動向調査

### 大企業の業況判断DIは 製造業で改善する一方、非 製造業は悪化

10月1日に発表された日銀短観(9月調査)では、大企業・製造業の業況判断DIが+13%Pt(6月調査+12%Pt)と小幅に改善したものの、大企業・非製造業は+13%Pt(6月調査+19%Pt)と悪化した。製造業では、足元での円安進行によるコスト増が懸念される石油・石炭製品や紙・パルプなどの業況判断が悪化した一方、国内販売に底入れの兆しがみられる自動車や、はん用機械などの業況判断が改善した。非製造業では、企業の生産活動停滞や個人消費の回復が遅れていることを受けて、全体的に悪化した。先行きは、製造業・非製造業ともにほぼ横ばいとなっている。今回の短観の結果は、消費増税後の落ち込みからの回復が個人消費を中心に遅れていることが示される内容であった。

### 2カ月ぶりの減産

9月30日に発表された8月の鉱工業生産指数は、前月比▲1.5%(7月同+0.4%)と、事前の計画(同+1.3%)を大きく下回った。内訳をみると、化学工業(除く医薬品)(同+4.1%)や電子部品・デバイス工業(同+4.9%)などが上昇した一方、はん用・生産用・業務用機械工業(同▲7.4%)や足元で在庫調整が続いている輸送機械工業(同▲3.8%)などが全体を押し下げた。生産予測指数をみると、9月(同+6.0%)に増産した後、10月(同▲0.2%)

**消費は一部で持ち直し、雇用環境は改善基調を維持**

はほぼ横ばいの計画となっている。9月が予測指数通りと仮定すると、7～9月期は前期比▲0.7%と2四半期連続の減産となる。

同日発表された8月の小売業販売額（季節調整値）は前月比+1.9%（7月同▲0.5%）と2カ月ぶりに増加した。エアコンや冷蔵庫を中心に売上が伸び悩んだ機械器具小売業（同▲0.7%）が減少した一方、各種商品小売業（同+4.3%）や飲食料品小売業（同+1.1%）、織物・衣服・身の回り品小売業（同+2.3%）が増加した。8月後半は気温低下により秋物衣料が好調だったほか、夏季賞与の増加を受けて高額商品が回復するなど、個人消費は一部で持ち直しの動きがみられる。8月の雇用関連指標は、失業率が3.5%と前月から0.3ポイント改善し、有効求人倍率は1.10倍と前月から横ばいとなった。建設や物流など非製造業を中心に労働需給はひっ迫しており、雇用環境の改善傾向が続いている。

来週は景気動向指数、機械受注などが発表される。

**一致C I、先行C Iともに低下**

10月7日に発表される8月の景気動向指数は、C I一致指数が108.5（7月109.9）、C I先行指数が104.0（7月105.4）と、ともに低下すると予測している。投資財出荷や鉱工業生産など製造業関連の指標の多くが押し下げに寄与し、一致C Iは2カ月ぶりに低下するとみられる。内閣府の基調判断は「足踏み」から「局面変化（下方）」に下方修正される見込みである。先行C Iは、鉱工業生産財在庫率や最終需要財在庫率が大きく悪化したため、3カ月ぶりに低下すると予想する。

**経常収支（原数値）の黒字は前年比増加**

8日に発表される8月の経常収支は1,639億円の黒字（7月4,167億円の黒字）と予測する。貿易赤字が前年比で小幅に拡大するものの、円安による第一次所得収支の押し上げが見込まれることから、経常収支の黒字は前年水準を上回る見通しである。

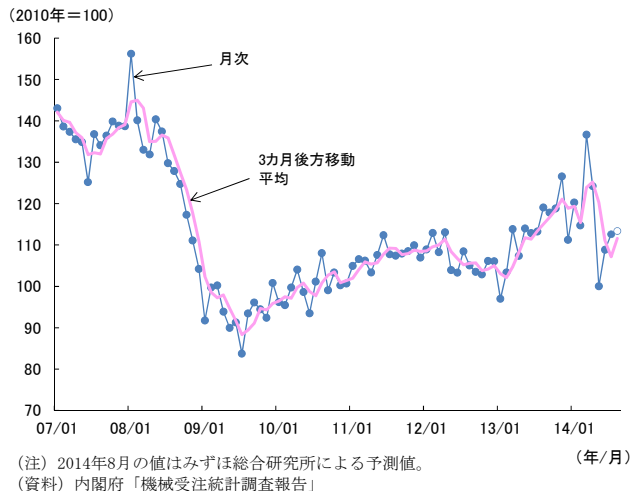
**機械受注は3カ月連続の前月比プラス**

9日に発表される8月の機械受注（船舶・電力を除く民需）は、前月比+3.1%（7月同+3.5%）と予測する。企業の設備投資意欲は底堅いことなどから、機械受注は3カ月連続で前月比プラスとなる見込みである。

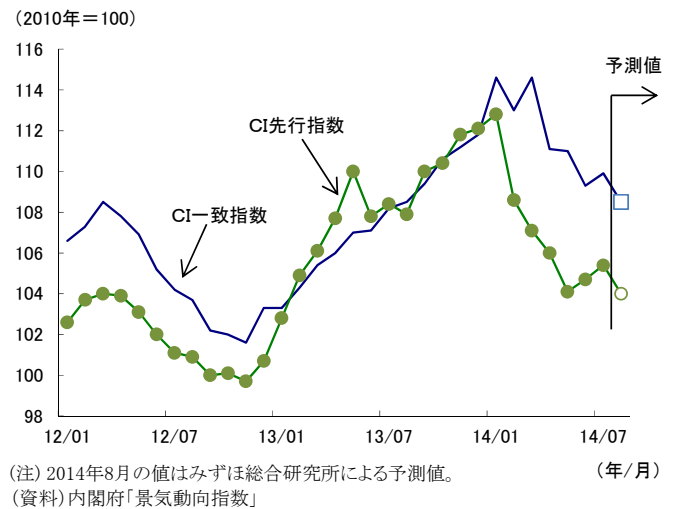
**第3次産業活動指数は前月から小幅に低下**

10日に発表される8月の第3次産業活動指数は、前月比▲0.2%（7月同±0.0%）と予測する。金融業の活動指数が上昇する一方、卸売業や土木・建築サービス業を含む学術研究、専門・技術サービス業の活動指数が低下し、第3次産業活動指数は前月比マイナスとなる見通しである。

図表1 機械受注（船舶・電力除く民需）



図表2 景気動向指数の推移



執筆担当～ 松浦大将

予測担当～ 景気動向指数：徳田秀信、機械受注統計・第3次産業活動指数：坂中弥生、

経常収支：大和香織

米国主要経済指標（ダイアリー掲載分）：山崎亮

●当レポートは情報提供のみを目的として作成されたものであり、商品の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。

## 【 来週のダイアリー 】

日付	経済指標等	予想	前回	前々回	
10/3(金)	米 雇用統計(9月) 失業率 非農業部門雇用者数 時間あたり賃金(全従業員ベース)	前月差 前月比	[6.2%] [+225千人] [+0.2%]	6.1% +142千人 +0.2%	6.2% +212千人 +0.1%
		非製造業ISM指数(9月)	[57.0]	59.6	58.7
	貿易収支(8月)	財・サ収支	▲408億ドル	▲405億ドル	▲408億ドル
	10/7(火)	日 先行DI 一致DI 先行CI 一致CI	[44.4%] [20.0%] [104.0] [108.5]	50.0% 40.0% 105.4 109.9	27.3% 9.1% 104.7 109.3
日銀金融政策決定会合(6・7日)					
日銀総裁定例記者会見					
	米 3年国債入札				
	尼 金融政策決定会合				
10/8(水)	日 国際収支(8月速報)	經常収支 (前年比)	[+1,639億円] [+4.3%]	+4,167億円 ▲30.6%	▲3,991億円 -
		貿易収支 (前年比)	[▲7,641円] [-]	▲8,281億円 -	▲5,371億円 -
	景気ウォッチャー調査(9月)	現状判断DI	N.A.	47.4	51.3
	全国企業倒産件数[帝国データ](9月)		N.A.	683件	844件
	日銀金融経済月報(10月)				
	中 HSBCサービスPMI(9月)		N.A.	54.1	50.0
	米 FOMC議事録(9/16・17)				
10年国債入札					
10/9(木)	日 機械受注(8月)	前月比 前年比	[+3.1%] [▲4.8%]	+3.5% +1.1%	+8.8% ▲3.0%
		[船舶・電力を除く民需]			
	米 失業保険新規申請件数(～10/4)		[295千人]	287千人	295千人
	30年国債入札				
英 英中銀金融政策委員会(8・9日)					
10/10(金)	日 第3次産業活動指数(8月)	前月比	[▲0.2%]	±0.0%	±0.0%
		日銀金融政策決定会合議事要旨(9/3・4分)			
	消費動向調査(9月)	消費者態度指数	N.A.	41.2	41.5
G20(20か国財務大臣・中央銀行総裁会議、ワシントンD.C.)					

予想：[ ]はみずほ総合研究所予想、それ以外はコンセンサス(Bloomberg等)。予定は変更になる可能性があります。  
日：日本、米：米国、英：英国、中：中国、尼：インドネシア